



▲「人形菊」の茎は曲げやすいように、長く、“粘り”がある。また、花が先に集まるように栽培されている。花を長持ちさせる工夫として、根元には水苔が巻かれている。



▲昨年度、かわら美術館で展示された菊人形「娘道成寺」



▲最終仕上げを行っているようす

菊人形

「菊人形は、一瞬たりとて同じ場面はないんだ。菊は生きているから、つぼみから満開まで、時々刻々と変化する。見るにしても、つくるにしても、そこが奥深くて面白いんだ。まだまだ修行中だよ。」と語るのは、菊人形師・神谷重明さん(神明町)。この道60年以上の大ベテランだ。

「菊人形」は江戸時代後半に誕生し、約170年の歴史がある。明治30年代、同じく等身大人形の「吉浜細工人形」が菊人形展主催者の目にとまったことから、吉浜地区の職人たちに菊人形の製作依頼が舞い込むようになり、全国各地の菊人形展に関わるようになっていったという。「北は北海道から南は鹿児島まで、アメリカ、ドイツ、オランダ、中国にも出かけていっとった。秋に地元におったことは、ほとんどなかったな。」

神谷さんは、菊師だった父親の薦めで、この世界に入った。一人前になるまでに、10年はかかったという。菊人形製作は通常は分業制だが、神谷さんは人形菊の栽培から、胴殻(人形の骨組み)づくり、人形への菊つけまでを1人で手がける。神谷さんが「菊人形師」と呼ばれるゆえんだ。

「今年の『人形小路 菊まつり』(11月8日(土)~16日(日))では4人の親方が協力し、6場面・14体の菊人形を展示する予定なんだ。これまで複数の親方が同じ会場で展示することはなかった。お互いにライバルだからね。でも、日本のよき伝統の灯を絶やしたくない、菊人形の魅力を伝えていきたい、という想いで一致したんだ。」地元で披露できる喜びをかみしめながら、よりよい人形をつくりたい—神谷さんの飽くなき挑戦が続く。

“撮っておき” の たかはま

【第21回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。

LELA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでください!

広報 **たかはま**

編集・発行／高浜市役所総合政策グループ
〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2
TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110
<http://www.city.takahama.lg.jp/>
電子メール info@city.takahama.lg.jp

早期配布にご協力ください。

VEGETABLE OIL INK 広報たかはまは植物油インキを使用しています。